

つながりにくい相談者への支援

市川市生活サポートセンターそら

主任相談支援員 朝比奈ミカ

生活困窮者自立支援法の主な対象者

- 生活困窮者は、既に顕在化している場合と、課題を抱えてはいるが見えにくい場合とがあり、法の施行に当たっては、この2つの視点で捉えていくことが重要。
- 「我が事・丸ごと」の地域づくりにより、課題を抱える世帯が地域で浮かび上がってくると、行政で対応すべき人は確実に増加すると見込まれる。

<主な対象者のイメージ>

※それぞれは重複もある

**福祉事務所
来訪者のうち
生活保護に
至らない者**
約30万人（H29・
厚生労働省推計）

ホームレス
約0.6万人（H29・ホームレス
の実態に関する全国調査）

**経済・生活問題を
原因とする自殺者**
約0.4万人（H28・自殺統計）

**離職期間
1年以上の
長期失業者**
約76万人（H28・
労働力調査）

**ひきこもり
状態に
ある人**
約18万人（H28・内
閣府推計による「狭
義のひきこもり」）
+ α（内閣府推計で対象外の
40歳以上の人）

スクール・ソーシャル・ワーカーが支援している子ども
約6万人（H27）

税や各種料金の滞納者、多重債務者等

地方税滞納率 0.9%（H27・総務省統計データ）、国保保険料滞納世帯数約311万世帯（H28・厚生労働省保険局国民健康保険課調べ）、無担保無保証借入3件以上の者 約137万人（H27・（株）日本信用情報機構統計データ）

既に
顕在化

見え
にくい
(厚生労働省資料)

自立相談支援窓口からは見えにくい人たちや課題の存在を常に想像する



表1：地域で相談しづらい課題を抱えた人たちはたくさんいる

DV被害者はパートナーがいる成人女性の・・・	23.7%	平成26年度内閣府調査による
レイプ被害者は成人女性の・・・	6.5%	同上
セクシュアルマイノリティは人口の・・・	7.6%	(株)電通ダイバーシティ・ラボの調査による
東日本大震災の広域避難者は・・・	8万4千人	2017年9月29日現在／復興庁による
刑務所出所者は年間・・・	5万4千人	平成22年度統計／法務省による
無店舗風俗店で働く女性は・・・	30万人以上	2016年現在／浦崎寛泰弁護士による

出典：日本地域福祉学会紀要『日本の地域福祉』第31巻（2018年3月）

「地域福祉研究のあり方を問う～相談支援の「出口」としての地域福祉への期待～」（拙稿）

見えにくくしているものは何か

①法制度の不十分さ

- ・制度がある→課題が社会的に認知されている
- ・解決策があるので、人々が相談に行動を起こす

②課題を抱えた人たちの意識

- ・そもそも、相談していいと思っていない
- ・公的機関には相談したくない（信頼できない）と思っている

③相談を受ける側の意識

- ・対応できる課題にしか意識が向かない
- ・自分自身の価値観にとらわれていることに気づいていない

氷山モデルの 理解と活用

「ジェンダー」と
「家族」は
取り扱い注意!

人々を追い詰める価値観

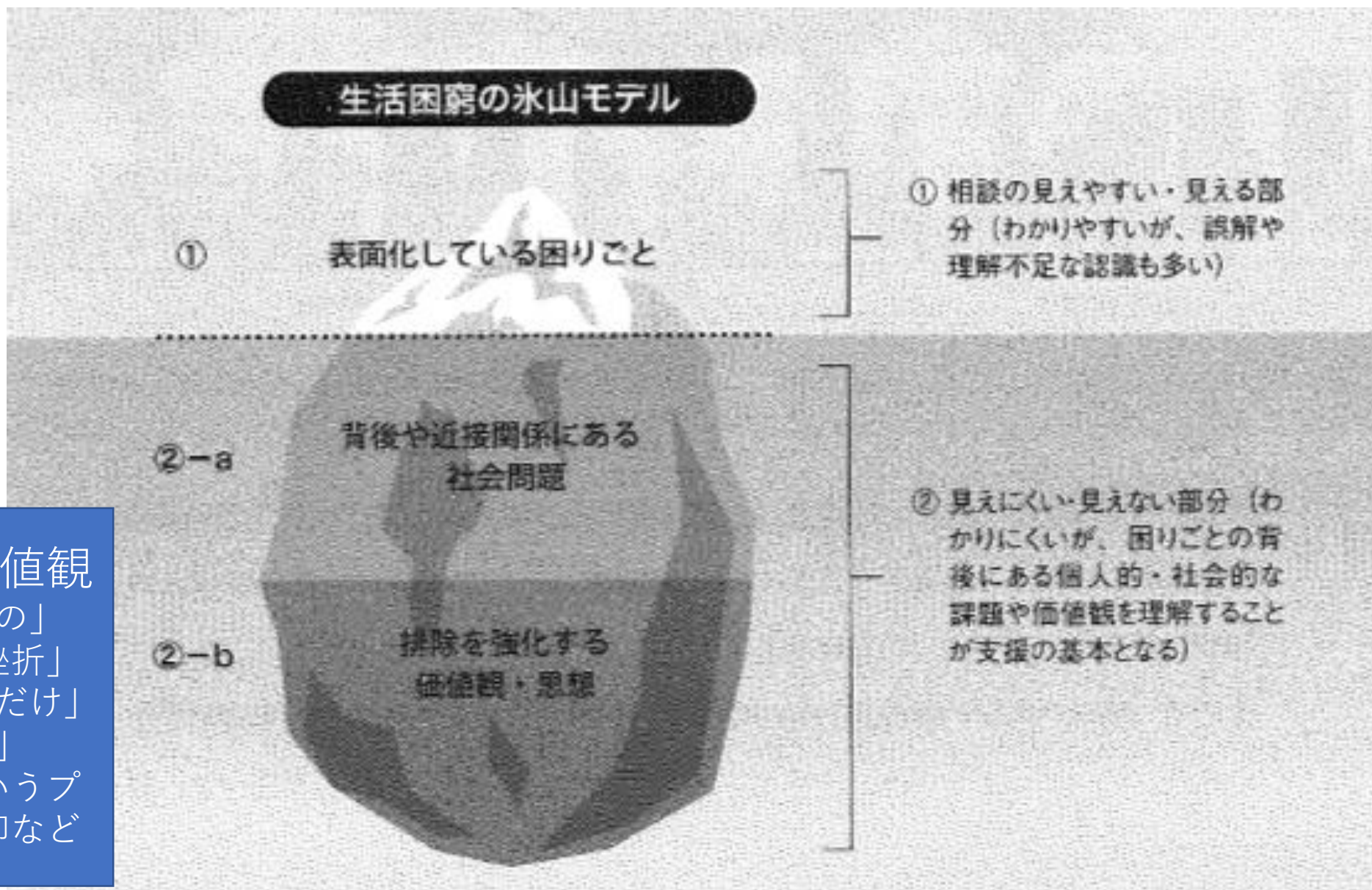
「子育ては親がすべきもの」

「学校に行かないことは挫折」

「働かないのは怠けているだけ」

「家族はこうあるべき」

よき人間像、よき人生というプレッシャーや一方的な烙印など



つながりにくい相談者と
つながっていくために

仕事の「ふり返し」が重要

- いまご本人に関わろうとしている自分を、外から見る視点
- いまその時が難しければ、後からでもふり返る
- 自分でふり返ることが難しければ、周囲の力を借りる

支えるチーム（体制）をどうつくるか

- 一人でどこまで耐えられるか？支えられるか？
柔軟に受けとめられるか？
- 組織のなかのチームづくり
～“ムダ話”ができる空間、時間、関係の大切さ
- 組織や立場を超えた、地域のなかのチーム
づくり～顔が見えて助け合える関係
- 地域を超えて、自らや自らのチームを強く、柔らかくするためのネットワークづくり

誠実に、自分に何ができるかを考える

- 想像する、思いを致すことを忘れない
- 当事者の近くにいる人たち、当事者と近づこうとして
いる人たちとつながる、支える
- 相談を、まずは受け止める。困難をともに考え、支える
ネットワークをつくっておく
→ 地域づくりは、常に、一人のニーズから始まる

見えてきた「困難」を社会に伝える

- 一人のニーズは、その一人だけのものではない
- 問題意識を溜めておく、横につながって問題意識を強化する
- その人と環境に働きかけるソーシャルワークは、必然的にソーシャルアクションを伴う
- 安易な嘆きや評論で終わらせず、辛抱強く「ソーシャルワーカー」であろうとする姿勢を